

多摩大学アジアダイナミズム濟州島研修視察 2018

An Activity Report of the Educational Visit to Cheju Island
in Tama University Asia Dynamism Program 2018

○趙 佑鎮* 金 美徳* 高 昌弘* 水盛 涼一*
Woojin CHO Mitoku KIM Changhong KO Ryohichi MIZUMORI
野坂 美穂* 小林 英夫* 越前 泰子** 黒瀬 洋*** 佐藤 文平*
Miho NOSAKA Hideo KOBAYASHI Yasuko ECHIZEN Yo KUROSE Bumpei SATO
(○代表、執筆者)

Keywords : Jeju Forum for Peace and Prosperity, Reengineering Peace for
Asia, Korean Davos, Global opinion leaders

1. 研修の目的

現代の産業界が最高学府である大学に望むものは、時代の課題をビジネスの現場で解決できる問題解決力をもった人材の育成と、アジア・ユーラシアダイナミズムというパラダイム転換の時代を創造する志や、「地政学的知」を身に付けた人材の育成である。また、多摩大学の基本理念の一つに「国際性」がある。これら大学に課せられた使命から多摩大アジアダイナミズム韓国濟州島研修として隣国である韓国において、世界の約 60 カ国 5000 人が集った「第 13 回濟州平和フォーラム 2018」(6 月 26 日(火)～6 月 28 日(木)、濟州国際会議場 International Convention Center Jeju)に参加した。参加学生は、東アジアの平和と繁栄を促進するための各国トップによる基調講演、ディスカッションなど、多国間対話と世界のビジネス最前線を肌で感じ、国際関係とビジネス ICT への深い洞察を、アジアの協力と発展についての知見を深めることができる。参加 6 年目の今年は、濟州平和研究院訪問視察、濟州漢拏大学との学生交流会を開催した。また、高大連携の一環として多摩大学目黒高等学校の生徒と、多摩地域のアクティブシニアを支援するシルバーデモクラシー企画の一環として社会人が参加した。本研修は参加および課題を提出することによりアクティブラーニング実践として単位認定される。

2. 宿泊先

① 濟州漢拏(ハンラ)大学ホテル(全員:1 日目)

* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

** 多摩大学目黒中学校・高等学校 Meguro High School, Tama University

*** 多摩大学学生課 School of Management and Information Sciences, Student Affairs Division, Tama University

- ② ブヨンホテルアンドリゾート 濟州 (Jeju Booyoung Hotel & Resort) (一部教員)
- ③ ホテル ザボーン (HOTEL THEBORN) (学生：2 日目以降)

3. 参加者 () 内は女子

経営情報学部学生 40 名 1 年次生 22(5)名・2 年次生 9(2)名・3 年次生 9(1)名
多摩大学目黒中学高等学校生徒 5 名 (高校 1 年 4 名(0))
田村嘉浩 理事長 (学校法人田村学園理事長、多摩大学目黒中学・高等学校校長)
多摩大学経営情報学部及び多摩大学目黒高等学校教職員 9 名
※日本経営者訪問団 56 名 ※多摩大学シルバーデモクラシー企画参加 4 名

4. 研修日程と内容

<経営情報学部オリエンテーション① 5 月 31 日 (木) 12:20 ~ 12:55 >

プログラム概要説明

<経営情報学部オリエンテーション② 6 月 7 日 (木) 12:20 ~ 12:55 >

- ・韓国近現代史：南北政府の樹立と分団の固定化 濟州 4.3 事件 事前学習 (金・趙)
- ・倫理経営 (趙)、事前・事後課題について (趙)

<経営情報学部オリエンテーション③ 6 月 14 日 (木) 12:20 ~ 12:55 >

- ・アジア長寿企業の新価値創造と経営哲学、長寿企業の哲学精神と経営など (趙)
- ・海外旅行保険について説明

<経営情報学部オリエンテーション④ 6 月 21 日 (木) 12:30 ~ 12:55 >

- ・濟州漢拏 (ハンラ) 大学学生交流会について (趙)
- ・オリエンテーション欠席者課題について (趙)
- ・集合場所など最終スケジュール・注意事項確認・学園歌練習

<第 1 日目 6 月 25 日 (月) >

- 07:30 成田国際空港国際線ターミナル第 1 旅客ターミナル北ウイング JTB カウンターに集合
- 09:45 ~ 12:25 参加者と教職員が KE718 便にて濟州国際空港へ
- 13:30 多摩大学研修団専用バス 2 台にて濟州漢拏大学へ
- 14:00 濟州漢拏大学ホテルにチェックイン
- 15:00 ~ 18:30 国際交流セレモニー、学生交流会
 - ・濟州漢拏大学 金星勲総長 挨拶、多摩大学 田村嘉浩理事長 挨拶
 - ・濟州漢拏大学 金星勲総長 特別講演『不完全性の歴史』
 - ・韓日学生代表 記念品贈呈
 - ・濟州漢拏大学歌披露 (①故郷の春、②さくら、③大長今 (テジャングム))、空手披露

- ・ 済州漢拏大学学生発表『交換留学生としての多摩大学での経験』（発表者：コ・ドヨン）
- ・ 多摩大学校歌披露、校歌紹介『日本歌謡作詞作曲界の巨星』（多摩大学 趙ゼミ生発表）
- ・ 多摩大学学生発表『日本における韓国文化について』（多摩大学 趙ゼミ生発表）
- ・ 各テーブルで学生グループ懇親歓談・交流会総括（両大学代表・挨拶）、記念撮影

19：00 済州漢拏大学内ホテル 夕食会

<第2日目 6月26日（火）>

- 07：00 朝食ブュッフェ（ホテル1階レストランにて） 09：00 集合・チェックアウト・バス移動
- 10：00～11：30 K・POP ミュージアム視察
- 11：40～12：20 昼食（サムギョッサル）
- 12：45～13：45 西帰浦 EMART ショッピング
- 14：30 中文観光団地 多摩大生宿舎 THE BORN HOTEL チェックイン
- 15：00 済州国際会議場（ICC）到着・受付登録
- 15：20～16：50 『環太平洋平和公園都市協議体コンファレンス』済州特別自治道主管
- 17：10～18：10 『世界難民問題の今日と明日』中央日報主管
- 17：10～18：10 『歴史和解と未来志向的日韓関係』東北アジア歴史財団主管
- 19：00～20：10 夕食（近郊レストラン・海鮮チゲ）
- 20：30～21：30 日本訪問団懇親会、福田元首相挨拶、記念写真、人間開発研究院会長挨拶
- 21：40 ホテル到着・解散

<第3日目 6月27日（水）>

- 07：00 朝食ブュッフェ（ホテルB1階レストランにて） 08：30 集合・バス移動
- 08：40～09：00 済州国際会議場にて全体ミーティング
- 09：00～10：00 [全体セッション I] 『グローバル貿易戦争と東北アジア安全保障環境』
ポール・クルーグマン：ノーベル経済学賞受賞者
- 10：20～11：00 [開会式]
- 11：00～12：30 [世界リーダーセッション] "アジア平和の再定立"
福田康夫元日本国総理、パン・キムン前国連事務総長、元カナダ総理ブライアン・マルルーニー
- 12：30 昼食（ビュッフェ）
- 13：30～15：00 [特別セッション] 『小淵－金大中共同宣言20周年記念 日韓両国友好協力増進方案』
日韓議員連盟主管 額賀福志郎衆議院議員・日韓議員連盟会長、韓国国会議員等発表
- 15：20～16：50 [企画セッション] 『小淵－金大中宣言20周年記念 日韓両国文化交流増進方案』
- 15：20～16：50 [セッション] 『4次産業革命：企業活動のための新フレームワーク』フリドリッヒナウマン財団
- 17：05～18：40 [日本セッション I・日韓交流記念公演] 多摩大学・東京都倫理法人会主管

『従来型経営の終焉、倫理経営転換が新たな市場を創出～哲学あるリーダーが成功する企業をつくる』多摩大学・東京都倫理法人会主管 発表(各 25 分)
 討論 (30 分) 質疑応答 (15 分)

司会: 趙佑鎮 発表: 黒澤眞次 (イカリ消毒会長)、文国現 (ムン・グヒョン)
 (ニューパラダイムインスティテュート代表、元柳韓キンバリー社長、元国会議員大統領候補)

- 19:00 ~ 20:15 [日韓大学生国際平和交流団セッション] 多摩大・濟州漢拏大主管
 司会: 趙佑鎮 『文化・グローバル都市の条件』
 講演発表: 康禹鉉 (カンウヒョン) 耽羅想像グループ代表
- 20:20 ~ 21:20 日本訪問団親睦交流会 (行徳哲男日本訪問団長挨拶・学生挨拶・名刺交換・懇親談話・記念公演)
- 21:40 ホテル到着・解散

<第4日目 6月28日(木)>

- 07:00 朝食ブュッフェ (ホテル B1 階レストランにて) 08:30 集合・バス移動
- 08:40 ~ 09:00 濟州国際会議場にて全体ミーティング
- 09:00 ~ 10:30 [日本セッション II] 多摩大学・100 年経営研究機構主管
 『企業の持続可能経営のための未来戦略』
 後藤俊夫 (100 年経営研究機構代表)、
 ハン・ジョンファ (元中小企業庁長・漢陽大学教授) 発表討論、
 司会: チャン・マンギ人間開発研究院会長
- 10:50 ~ 11:40 [全体セッション] ユネスコ事務総長 オードリ・アズレ特別講演
 『平和と繁栄のためのユネスコの役割: 教育、文化、科学を通じた多者協力』
 対談ウオン・ヒリョン濟州特別自治道知事
- 11:50 ~ 12:40 [全体セッション] 特別講演 ノーベル平和賞受賞者ホセ・ラモス＝ホルタ
 元東ティモール大統領 『人類普遍価値としての平和と人権・東北アジアの
 和解と平和増進』
- 12:40 昼食 (ビュッフェ)
- 14:00 ~ 15:30 [特別セッション] ノーベル文学賞受賞者 ル・クレジオ対談
 『和解と共生 幸福に至る濟州の道を問う』 濟州特別自治道主管
- 14:00 ~ 15:30 [セッション] 『朝鮮半島 新平和パラダイム構築と市民社会の役割』
- 15:50 ~ 17:20 [セッション] 『外信記者が見た 4.3』 濟州 4.3 研究所
 [セッション] 『オリンピック成功のための日中韓 3 国間経済協力』 日中韓
 3 国協力事務所
- 16:10 ~ 17:20 [セッション] 『東アジア平和芸術ネットワーク構築』 濟州平和研究院
- 17:40 ~ 19:10 [セッション] 『濟州 4.3 と女性、国家暴力』 濟州 4.3 研究所
 [セッション] 『朝鮮半島と平和島: 民間レベルの 6 者会談文化+平和教育
 と観光福祉』 濟州大学
- 19:10 夕食 (海鮮丼)
- 20:00 ~ 21:30 濟州フォーラム記念平和コンサート 21:40 ホテル到着・解散

<第5日目 6月29日(金)>

07:00	朝食buffet (ホテル B1 階レストランにて)	08:45	集合・チェックアウト・バス移動
09:00 ~ 10:00	濟州平和研究院訪問視察	アジア平和・国際関係展示物視察、記念写真	
10:00 ~ 11:20	濟州平和研究院長・濟州フォーラム執行委員長特別講演		
12:00	昼食 (近郊中華レストラン)		
13:00 ~ 14:00	耽羅想像共和国 文化視察見学		
14:30	濟州空港着、搭乗手続き開始		
16:10	濟州空港 KE1240 便発	→	17:20 金浦空港着 (ソウル金浦経由便)
18:45	金浦空港 KE2711 便発	→	21:05 羽田空港着、解散

5. 研修視察の成果—学生感想文から抜粋

(2年) 濟州島研修に参加して、日韓関係の向上を日韓共に望んでいることを改めて知ることができた。世界平和について様々な観点から学ぶことが多く、特に有名俳優であるチョン・ウソンさんがゲストとして参加した難民問題セッションは考えさせられた。難民を一挙に受け入れることは現実問題として難しくとも、可能な限り前向きに対処すべきと思った。濟州島の韓国人は我々に大変親切で、機会があれば今度はプライベートで訪問したいと思ったくらいである。韓国語を中心とした外国語習得も、日々精進していきたい。

(2年) 学生交流会で感じたのは韓国の大学生の勉強への意識の高さであった。外国語への取り組みや、毎日が熾烈な競争での熱心さを見習い、よりしっかりした勉強をしなければならなかった。フォーラムの内容は、インターゼミで研究しているテーマも多く、私が学生交流会で発表した文化交流もテーマとして取り上げられて大変参考になった。アジアの近現代史を知りつつ、相手の考え方も理解していかなければならないことは、これからのグローバル社会における人生において活かせることだと思う。

(2年) 今回で2回目の濟州島研修であった。去年は、1年生で、初の海外研修だったので、わからないことも多かったが、今回は余裕を持ちながら知識習得もでき、楽しむことができた。この研修での経験から、勉強に打ち込まなければいけない切実さや、英検への取り組みが促されたと思っている。現地の人の温かさに触れることで、韓国をよく思っていない人も、きっと印象が変わるので、多くの学生にこのフォーラムには行ってもらいたい。

(2年) 濟州フォーラムでは、アジアにおける環境問題への対応や相互理解の未熟さが指摘され、これら問題解決のための教育が必要と感じた。例えば、日韓歴史問題においても、日本の一部は「韓国を併合し、いいこともしてあげた」という言い分があり、韓国では「侵略され虐げられた」という悲しい歴史をみているが、配慮や思いやりという日本人ならではの良さを発揮し、アジア平和に向けての解決を志向しなければと思った。自分も無知から脱して、外国と日本の架け橋となれるような仕事に強く興味を持てるきっかけになった。常にアンテナを張り続け、傾向しすぎた意見にならないよう知識を深め、国際社会で恥ずかしくならないよう、勉強や国際交流に向き合っていきたい。

(3年) 常に同じ場所に居て、坦々と日々を過ごすとは何も変わらない。日本を出て、少しでも世界情勢に興味を持つべきで、知識が増えると、物事をより多面的に、かつ正確に分析でき

る。その点、濟州フォーラムに参加することは、より世界情勢に関心を持つのに、良いきっかけになったと感じた。ハンラ大学の学生と交流したことで、韓国人の日本に対する印象を把握することができ、互いの習慣の同異についても話し合うことができ、有意義であった。今回の研修を通じて、日本人は韓国など他国をさらに理解し、一層協力し合うことができると確信した。この経験を糧に、より広い視野を持ち、心を開き続けることにした。今日の安寧をただ享受するのではなく、身の周りで起きている問題を見つめ、自分は行動したい。

(2年) 研修中に驚いたことは、韓国人の日本語の習得率であった。日本語学科の学生は勿論、街の人たちも積極的に日本語で話しかけてきたので感心した。日韓関係は悪いと思われているが、それは政治や外交から来るもので、文化面での仲は友好的だと感じた。多摩大主催のセッションテーマは「持続可能な100年経営」、「倫理経営」であり、大統領や首相経験者が語る「世界リーダー会議」等、非常に有意義な話が多く、為になった。過去日本が韓国に酷いことをしてきたのは事実だが、一方では、何度も謝罪をし、援助もしている。完全には許せないのは判るが、韓国側も考えを柔軟にしてくれないと関係は大きくは変化しないと思った。若者の大半は仲が良く、互いの文化を享受しているので、私たちの世代が国を仕切るときになれば、良好な関係になると期待している。

(1年) フォーラムの合間に日本の経営者の方々と交流する機会があり、様々なお話を聞いて勉強になった。セッション中にコメントを求められる機会があったので、多くの聴衆の前に立って即興の発表をし、非常に緊張した。幸いにも同席の経営者の方々達から好評を頂き、ここで私は自分の殻を一つ破った感覚がして、何事も行動すべきと強く思った。学生交流会では、合唱や琴、空手なども披露していただき、韓国の細かい文化や生活等を聞くことができた。本場にフォーラムも素晴らしかったし、日韓の文化や政治経済の違いをもっと知りたいので、来年も濟州島研修は、ぜひ参加したいと考えている。

(2年) フォーラムで得た示唆は、互いがリスペクトし合えれば多くの問題は解決できるということである。狭い視野や先入観で物事を判断してはいけないのである。どの国にも、いい人は必ずいて、仲良くやっていけるなど感じた。今回の研修をきっかけに、どの国の人もコミュニケーションを取れる機会があったら絡んでみたいと思った。

(2年) 韓国のイメージが行く前と、行ってからは逆転した。私かわからないことで困っていたところ、かまってくれるか、優しく話しかけてくれる韓国人が多く、海外に興味を持つきっかけを濟州島研修は、つくってくれた。色々な海外に行き、日本と他国を比べながら知識と経験を積みたいと強く思えるような貴重な研修であった。

(4年) 2回目の濟州島研修であった。セッションの内容は高度で理解するのは難しいものばかりだったが、「どのように他国の問題を捉えられるか」と考え、「世界から見たアジア又は日本」という思考が身についた点を鑑みると前回とは大きく変わった自分がいることを実感した。今回の研修で、普段ではじっくり話すことはない多くの教職員と会話でき、大変有意義な学びを得ることができた。今回の研修に対して、死ぬまで知識と知恵を蓄えていく大事さや、新たな世界に踏み出す意味を気付かせてもらったということに感謝したい。

(1年) フォーラムでの印象が強かった言葉は、韓国首相の「奇跡は奇跡的に起こらない。奇跡は準備があり、努力をして起こるもの」であった。朝鮮半島における核や平和の問題解決は国際関係における今後の奇跡といえるが、我々も学生のうちに今回の研修のような経験を積み重ねながら準備をして、アジア平和を目指せる人材になっていかなければと感じた。

6. 今回の研修の特徴と総括

多摩大生の毎年度参加が6回目である今回の済州フォーラムと研修の特徴は下記の通りである。

- ・フォーラム貴賓として招かれた福田康夫元首相は、日本訪問団懇親会に参加し、多摩大生のための挨拶を行った。その際に、ビジネスにおける平和の大事さ、外国語とコミュニケーション力を磨くことを強調し、これからのアジア時代は若者が担うことについて激励した。
- ・教職員の相互協力とこれまでの経験値によって、学生の事前学習及びセッション学習の誘導や引率、トラブル処理において円滑に行われた。また、6回目の多摩大企画の日本セッションも参加人員の量と議論内容の質において、去年同様に済州フォーラムに十分な貢献をしたと評価された。
- ・学生のフォーラムに臨む姿勢態度も去年以上に向上している。去年はセッションでの学生からの質問や感想表明、議論参加はあまりされなかったが、今年は活発に行われた。
- ・済州フォーラム開会式基調演説での李洛淵（イ・ナクヨン）韓国首相のメッセージは、韓国政府の朝鮮半島恒久平和への強い意志を示すものであった。南北・米朝首脳会談によって世界の注目を浴びている朝鮮半島情勢を反映してか、フォーラムの内外の注目度は高かった。
- ・キム・ソンファン済州漢拏大学総長とソ・ジョンハ済州平和研究院長兼済州フォーラム執行委員長は、引率の田村嘉浩田村学園理事長、教職員及び学生に対し、多摩大学の6年連続の済州島研修について日韓交流の貴重なモデルとして敬意を示し、今後とも全面的協力支援を表明した。
- ・高大連携の一環として多摩大学目黒中学高等学校生徒5名は、多摩大教員の事前学習も受け、研修期間中に大学生と交わりながら、セッション参観も集中力を持ちながら十分にこなした。
- ・シルバーデモクラシー企画として学長室長引率の元、モニタリングとして参加した地域のシルバー4人も無事日程を終え、内容の充実さを満足していただいた。
- ・多摩大生のための、ソ・ジョンハ済州平和研究院長兼済州フォーラム執行委員長の日韓関係をテーマとした講義においては、学生からの反応は去年以上に高く、質疑応答も活発に行われた。
- ・済州漢拏大学の交流会は、盛大な歓迎ぶりであり、キム・ソンファン済州漢拏大学総長自らが、多摩大生のために日本語で特別講義を行った。済州漢拏大学学生もフレンドリーに多摩大生に接してもらい、そのため、韓国人と国際交流へのイメージと抵抗感も変化したという感想が聞かれた。
- ・韓国英字新聞である KOREA JOONGANG DAILY（6月25日3面）に Korea, Japan remember joint declaration という題で、済州フォーラムに参加する多摩大学と日本経営者の紹介と共に、多摩大生が何故アジアダイナミズムに取り組むのか、そのためのアクティブラーニングや日韓の民間交流としての意義等についての記事が掲載された。
- ・今回の済州島研修交流に参加した2年の女子学生1人が、国際交流協定を結んでいる済州漢拏大学に2019年度長期交換留学生として派遣されることになった。日韓学生交流や済州フォーラムでの学びの刺激が留学のきっかけになったという本人談である。なお、済州漢拏大学から本学への長期交換留学生はこれまで2人である。



濟州漢拏大学ホテル前にて集合写真



濟州漢拏大学 国際交流会



韓国文化視察 (K・POP ミュージアム)



環太平洋平和公園都市協賛体コンファレンス



多摩大生・目黒高生のための福田元総理の激励挨拶



福田元首相と多摩大研修団との記念写真



全体セッション ポール・クルーグマン (右)



全体セッション会場の様子



福田康夫元日本国総理の講演



世界リーダーセッション



日本セッションの様子



多摩大主管の日本セッションでの元大統領候補
文国現氏 (左)・田村理事長 (中央)・趙教授 (右)



セッションの様子



濟州平和研究院長講演



ソ・ジョンハ 濟州フォーラム 執行委員長と田村理事長



濟州平和研究院展示視察



濟州平和研究院集合写真



韓国文化視察（耽羅想像共和国）